

## 2 農協への結集とその機能強化への期待

この農業計画の推進に当たっては、特に農業者の民主的な経済団体としての農協の果たすべき役割はきわめて大きいものがある。

すなわち、激しく変貌する社会経済情勢の中で、零細な生産構造と恵まれない市場立地という厳しい条件を背景としながら、農業の経営構造の改善と生産の拡大をはかり、ますます激しくなる流通市場における産地間競争に打ち克つて、農業者の丹精を砕き多量に打ち克つて、農業者の組織的活動に依拠することが不可欠の要件とされる。

このため、先駆的農家の人々を先達として全農業者の農協組織への結集をはかり、一方、農協にあたっては系統農協の自主性の昂揚を基調として、先ず総合農協の広域合併による生産段階から流通段階にわたる一連の機能の拡充と強化をはかることによって、熊本農業に新時代をひらくための積極的な活動の展開に大きく期待したい。

## 3 農業委員会の活動への期待

この農業計画の推進に当たっては、行政機関としての機能のほか、農業および農業者の利益代表機能、農政の普及推進機能という三つの分野にわたる役割をこなした農業委員会の活動への期待は、きわめて大きいものがある。

このためこの農業計画の実施段階では大きくは農業上の土地利用の調整と、農

# 農業地帯別計画

### 1 熊本平野農業地帯



概況

県の中央部に位置し、活発な人々の増加と都市機能の集積による県内随一の消費市場としての熊本市街を擁したこの地帯では、かなり多様な農業が営まれ、専ら都市近郊型農業への移行と近代化が急がれている。しかしここでは南部の湛水、優良農団地のスプロール、地価の高騰、乱立気味の卸売市場、兼業化の連行と後継者問題、一般的な心理的動揺等々いろいろ困難な問題も現われている。

振興方向

今後は一般的にはこれまでの土地利用農業は次第に困難となり、施設利用型への移行が進むこととなる。そこで先ず今後の都市化の流れを予見しながら、農業志向の地区と農家を明らかにし、南部水田・東北台地・金峯山麓と、その



振興方向

立地を踏まえて米・野菜・花卉・公害回避を前提とした畜産、それに樹芸等を重点に振興をはかる。これには農協の広域合併による管理体制の強化がかなめとなる。

### 2 宇土半島農業地帯

県の中央部に位置し、熊本市との連なりや交通条件など、恵まれた社会的環境の中で、農業は平坦部の基盤整備や半島の樹園地造成にみるようにきわめて意欲的であり、その成果もまた著しいものがある。

ここでは宇土半島を中心とする用水の不足、兼業化、老齢化と技術問題、流通施設の対応のアンバランス、今後予想される農用地のスプロール等々、問題点もまた多様である。

振興方向

進等は、特に効果的な方策として大きく期待したい。

旺盛な農家の意欲・恵まれた立地・高い生産技術の三つを背景に、一方平坦部は米を基盤に施設園芸および草・半島部における果樹、戸島島における花卉等を重点に振興をはかる。

### 3 下益城農業地帯



概況

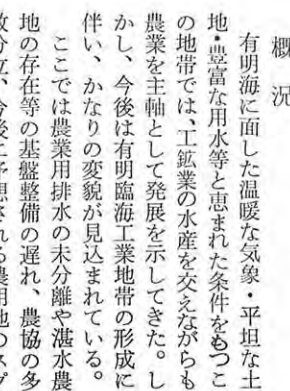
恵まれた高い生産技術をそなえたこの地帯では、きわめて多様かつ大量な農業生産をもち、隣接の八代平野や熊本平野とともに、県下有数の農業地帯として発展を続けている。

しかし農業用排水の未分離、恒常的な湛水被害、中部丘陵から平坦水田の一部におよぶ、用水不足、東部山間地区の立地のハンディ、農業の多数分立等々と、当面している問題点もまた甚だ大きいものがある。

振興方向

旺盛な農家の意欲を背景に、平坦水田地区では、土地条件の整備や湛水防除を伴いながら、米を基盤に野菜・草・たばこ・それにユニークな水田酪農等、次に中部丘陵地区では、将来、緑川ダムからの灌漑を支えに畜産・果樹・樹芸・養蚕・茶・花卉・野菜等、また東部山間地区では立地のハンディを克服しながら養蚕・畜産・菓・茶等を重点とする。なお、農協の広域合併は総べてにわたってのかなめをなすものであろう。

### 4 玉名平野農業地帯



概況

有明海に面した温暖な気象・平坦な土地・豊富な用水等と恵まれた条件をもつこの地帯では、工鉦業の水産を交えながらも農業を主軸として発展を示してきた。しかし、今後は有明臨海工業地帯の形成に伴い、かなりの変貌が見込まれている。

ここでは農業用排水の未分離や湛水農地の存在等の基盤整備の遅れ、農協の多数分立、今後に予想される農用地のスプロールと地価の高騰等とかなり多様な問題がみられる。

振興方向

今後は工業とそれに伴う第三次産業の伸びが見込まれ、地区を選んで農業が配されることとなる。その見通しは、菊池川を挟む横島・玉名岱明を結ぶ一連の地区と、小岱山麓から金峯山麓を結ぶ丘陵地区は、野菜や果樹等を最重点に生産性の高い農業の形成が見込まれ、またこの程入植の横島干拓の将来も大きく期待される。なお、農協の広域的合併による管理体制の拡充は当面の課題であらう。

### 5 金峯山麓農業地帯



概況

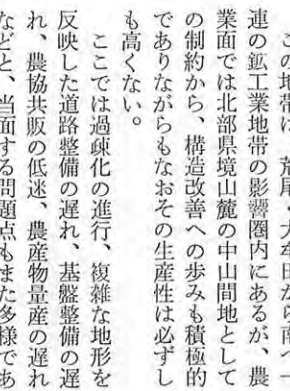
金峯山・熊野岳・三の岳の山麓にひろがるこの地帯は、西部と北部を除いてその大部分が、古くからの密度の高い果樹地帯となつて、全国的にも屈指の産地を形成している。

しかし、なお灌漑用水の不足、豪雨等による災害の発生、複雑な地形からくる交通の制約、基盤整備の遅れ、農協共販の低迷、地価の高騰、さらに最近のみかんの過剰傾向などと当面している問題点もまた多様である。

振興方向

に深めながら、金峯山地区では大部分がみかんの単一経営となり、一方西部の平坦水田地区では米・みかんおよび米・野菜の複合経営。また北部の木葉地区では都市に近接して兼業が一般化しよう。ここでは農協の広域的合併による体制の強化と、みかんにおける十アール当り収量四トン・所要労働力百六十二時間をモットーにした生産費の引き下げおよび品質向上への努力がポイントとなる。

### 6 玉名北部農業地帯



概況

この地帯は、荒尾・大牟田から南へ一連の鉦工業地帯の影響圏内にあるが、農業面では北部県境山麓の中山間地としての制約から、構造改善への歩みも積極的でありながらもなおその生産性は必ずしも高くない。

ここでは過疎化の進行、複雑な地形を反映した道路整備の遅れ、基盤整備の遅れ、農協共販の低迷、農産物量産の遅れなどと、当面している問題点もまた多様である。

振興方向